

令和8年6月19日

特別の教育課程編成・実施報告書

長崎県			
学校名	管理機関名	設置者の別	校種
長崎県立壱岐高等学校	長崎県	国・ <input checked="" type="checkbox"/> 公・私	小・中・ <input checked="" type="checkbox"/> 高・中等

1 特別の教育課程の編成	
<p>(1) 必要となる教育課程の基準の特例の内容</p> <p>特別の教育課程を行う本校の「東アジア歴史・中国語コース」においては、数学、理科等の教科において科目の削減を行い、学校設定教科である「東アジア学」の単位数に充当した。コース内に歴史学専攻と中国語専攻の二つの専攻を設けて、1年次は歴史学と中国語の両方を学習し、2年次から一方の専攻に分かれる形態をとっている。</p> <p>(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性</p> <p>県の「高校生の離島留学制度」に基づいたコースであるため、地域の特色や県の制度を活用した教育課程を編成することが必要である。地域の特色とは、壱岐島内の国指定特別史跡である「原の辻遺跡」をはじめとする豊富な史跡群や「長崎県埋蔵文化財センター」の存在であり、県の制度とは、中国語の中国人講師の派遣である。それらを活用するために「東アジア学」を設定した。</p>	
2 取組の期間	
<p>・特例の適用開始日 :平成20年4月1日 (構造改革特別区域認定による特例の適用開始日:平成16年4月1日)</p> <p>・変更した特例の適用開始日 :平成22年4月1日</p> <p>・取組の終期 :</p>	
3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況	
<p>(1) 実施体制</p> <p>特別の教育課程に基づく教育を実施するための体制(校務分掌等)について</p> <p>標記の教育の実施における体制として、学級担任及び副担任(中国語指導教員を含む)、東アジアコース主任、離島留学支援員で構成した東アジア歴史・中国語コース部を設けている。また、離島留学制度で入学した島外出身生徒の生活支援等に対しては、壱岐振興局・県教育委員会・壱岐市行政機関・民生委員等の外部機関との連携により支援している。また、校内に「離島留学推進協議会」、「離島留学支援チーム」、「しま親連絡協議会」を設けて支援体制を構築している。</p> <p>(2) 指導計画及び授業の内容</p> <p>特別の教育課程に基づく授業を実施するために設定した学校設定教科「東アジア学」において、合計8科目(歴史学入門・考古学入門・課題研究・郷土史研究・アジア交流史・基礎中国語・中国語会話・中国語購読)を設定した。</p>	

(3) 児童・生徒への教育上の配慮等

学校設定科目の履修者は少人数であるため、野外実習やレポート作成等の場面において、各生徒に対し個別指導をすることができる。中国語・歴史学ともに授業だけでなく、授業時間以外でも指導を個々に行っている。また、「語学研修」や「歴史学巡検」等の研修事業の実施にあたっては、県からの補助を活用することで、経済的負担を軽減しつつ、実践的な学習体験を積むことができている。

(4) 情報提供の状況

本校の離島留学制度や東アジアコースについては、次のような情報発信や広報活動を行っている。

- ① 島内中学校への訪問・説明会
- ② 県教委主催の離島留学説明会（長崎県内・福岡県で実施）
- ③ 壱岐市と連携した広報（地域の回覧板の活用等）
- ④ 学校案内の各種機関への配付
- ⑤ 学校ホームページや学校だより等において、東アジアコース生徒の活躍や行事等を紹介
URL: <http://www2.news.ed.jp/section/iki-h/>
- ⑥ 年1回の東アジアコース紀要の発行と関係学校・機関への配付
- ⑦ 地元ケーブルテレビや新聞等、各メディアへの出演や掲載
- ⑧ 東アジアコース宿泊体験・体験入学
- ⑨ 課題研究や教育活動の発表（コース発表会等）

4 実施の効果、課題と今後の取組

(1) 実施による効果

- ① 歴史論文コンクールや中国語スピーチコンテスト等各種大会での入賞
- ② 中国語検定の取得
- ③ 国内大学の歴史・中国語系統の学科や、上海外国語大学への進学
- ④ 歴史学の知見を生かした専門職への就職、中国語を生かした一般企業への就職

(2) 課題と今後の取組

現在、担任や副担任に加え、離島留学支援員を複数配置することで、生徒に対するきめ細やかな指導や配慮に努めている。今年度は校内組織の改編により「教務・総務」「進路」「生徒指導」に次ぐ「第4の分掌部」となる「コース部」として独立した。これにより、体系的な行事の計画・実施や教職員の業務分担の見直しを図っていく。今後は、東アジア歴史・中国語コース部をさらに充実させ、情報交換を密にし、今まで以上に生徒へのサポート体制や教職員の連携を深めたい。また、本コースは地域の特色を活かした教育活動を行っているため、十分な情報発信を継続させ、学校説明会や体験入学などで入学予定者との理解を深めながら、入学者数の増加、特に地元中学校からの入学者の確保に努めていかなければならない。併せて、島外生の受け皿となるしま親さんの確保も喫緊の課題である。なお、中国語、歴史学の両方で、教育活動の成果や進学実績が向上しているので、この点も外部に積極的に発信し、本コースの発展と地域への貢献に努めていきたい。